

平成 22 年度

《第 1 回》

国語

時間 50 分、100 点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一、次の文を読みあとの問い合わせに答えなさい。

リンゴは古来、農薬で作ると言われるほど病虫害が多く、人々はその戦いに明け暮れてきたと申し上げてもアカゴンではあります。生産者の技術以上に肥料、農薬会社の研究開発が現在のリンゴ産業を支えてきたと思います。

しかし、私は肥料、農薬なしには栽培不可能というリンゴの栽培史に、ようやくAピリオドを打つことができました。切り口が酸化せず、糖度が高く、生命力あふれるリンゴが実りました。

脱サラで農業に全く無知だった私が1常識外れの「自然栽培」に取り組んだのですから、その被害は甚大で、何年もの無収穫（無収入）時代を経験しました。リンゴが実るまで、自分が歩いている道が良いのか悪いのか、だれに問い合わせても答えはなく、参考になる書籍もありませんでした。すべてが（1）から得た知識でやつてきました。瀬戸際ばかり歩きました。毎日がドラマ、そしてイシンケン勝負でした。答えのない世界がいっぱいありました。

そして慣行農業から移行後、十一年目に畑全面に咲いてくれた花の美しさは一生忘れることができません。

その間、ずっと耐えてくれたリンゴの木、木を支えてくれた雑草、土、すべての環境に感謝せずにいられません。はじめは一個でも実らしてちようだい、とお願いしました。でもどんどん枯れていき、枯れるのがかわいそうで、（1）とリンゴの木に話しかけて歩きました。そして生き残った木が今、こうして実らせてくれたわけです。

リンゴがならない期間があまりにも長かったので、その間キュウリやナス、大根、キャベツなどの野菜、お米を勉強できました。野菜やお米は今から二十年以上も前に相当の成果を得て、その後様々なノウハウを盛り込み今日に至っています。リンゴはやはり難しいです。それはリンゴの品種改良があまりに行われてきたため、原種から程遠いものになっているからです。リンゴに比べると、同じ無肥料、無農薬でもおA-1米と野菜はウイガイにスマーズでできました。

私は全国の農家の人にこう言っています。みなさんの体にリンゴ一つ、お米一粒実らすことできますか。（2）人間はどんなに頑張っても、自分で花一つ咲かせられません。米を実らせるのはイネです。リンゴを実らせるのはリンゴの木です。主人公は（2）ではなくてリンゴの木やイネです。人間はそのお手伝いをしているだけです。そこを十分にわかってくれださい、と。

当時、私が自分がリンゴを作っていると思い上がっていました。失敗に失敗を重ね、この栽培をやつて知ったことは、私ができるのはリンゴが育ちやすいような環境のお手伝いをすることぐらいということでした。地球の中では人間も一生物にすぎません。木も動物も花も虫たちも皆兄弟です。互いに生き物として自然の中で（3）しているのです。人間はもつと謙虚であるべきだと思います。人間は自然の（4）ではなく、自然の中に人間がいるよと考へるべきです。

神様が地球のみんなのお願いを聞いてくれるとなります。

「家族みんなが、金持ちで幸せに暮らしますように」と人間は願います。

神様が木や鳥やすべての地球上の生き物の願いを聞きます。

すると何のお願いが一番多いでしょうか？

「3人間が地球からいなくなつた方がいい」

私は自然から力を借りて生産をする農業に誇りを持っています。それは無から有を生むからです。これこそが自然と暮らす百姓のB醍醐味だと思います。私はこの農業をやつて幸せです。以前は農薬が怖くて顔を覆つていたのですから。今は家族で笑いながら作業ができます。

農薬や肥料などの不使用は、食の安全のみならず、地球の環境保全にも役立ちます。

この自然栽培を全国の人や海外へ教えようと歩き始めて、もう十七年になります。ようやく、私の考えにエサンドウ下さる生産者があちこちで活動するようになつてきました。将来、自然栽培のオワが大きく広がり、各地に自然が戻り、失われつつある昆虫や淡水魚が身近に見られる農村風景が取り戻されることを夢見ています。

「リンゴが教えてくれたこと」木村秋則

問一
二重線部アヽ才のカタカナを漢字に改めなさい。

問二　波線部A・Bの言葉の意味として適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

卷之三

物事を完成させる」と
物事を中断させる」と
物事を進行させる」と

B
醍醐味

エウイアエウイ
物事を完成させろ
物事を中断させろ
物事を進行させる
本当の苦しさ
本当のおもしろさ
本当の自信
本当の精神

問三 傍線部1 「常識外れの『自然栽培』」とはどのような栽培ですか。文中の言葉を用いて十字以内で答えなさい。

(1)・(2)にあてはまる言葉を文中よりそれぞれ漢字二字で抜き出しなさい。

問五

ア イ ワ
一個も実らなくていいから枯れないでちようだい
枯れてもいいからせめて一個だけ実らせてちようだい
一個だけ実らせてから枯れてちょうだい

枯れるまでに出来るだけ多く実らせてちようだい

アア⁽³⁾
競争⁽⁴⁾
イイ⁽⁵⁾
従事者⁽⁶⁾
ウウ⁽⁷⁾
中間⁽⁸⁾
エエ⁽⁹⁾
共生⁽¹⁰⁾
支記者⁽¹¹⁾

問七 傍線部2について、では筆者が人間としてできたことは何でしたか。文中より一十五字以内で抜き出しなさい。

問八 傍線部3 「人間が地球からいなくなつた方がいい」とあります。筆者はどうして地球上の生き物の願いの答えに設定したのですか。その理由を説明した次の文の（ ）に指定された字数で考えて答えなさい。

人間によつて（
十字以内）と考えられるから。

問九 エウイア 本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
筆者は何よりもリンゴ作りにばかり集中して農業に励んできたといえる。
筆者は熱心にリンゴ研究をしていたので順調に栽培を成功することができた。
農業をするにしても失敗はあり得るので人間はお金を持つ必要がある。
筆者はリンゴ栽培を通して自然環境の大切さを語っている。

二、次の文を読みあととの問い合わせに答えなさい。

おろち峠とうげは、その名前とうめいのとおり、道が（一）のようにまがりくねつた峠だつた。
「今は、ほそうしてあるし、車が二台、充分にすれちがうことができる幅はばがあるだろう。
だけどひとむかし前は、ひどかった。せまくてガードレールもない場所もあつてな、よく
事故が起つたもんだ。パパの父さんや母さんも、つまり、おまえたちのじいさんとばあ
さんだけどな、ふたりとも、この峠で死んだんだ。もう十五年も前だけどな。追いこしの
トラックに接触せきしょくされて、軽トラキントラごと谷底だ。ひどいもんだつたな」

峠をおりるあいだ、広はずつとしやべり続けた。巧は、ジャンパーのポケットに右手を
つつこむ。そこには、いつもボールがあつた。軟式ボールC号。岡山の街で、三年間、に
ぎり続けてきたボールだった。

「ほら、もうすぐ新田市にはいるぞ。丘の上に白い建物が見えるんだ。そこが、新田高校。
パパとママがかよつた高校だぞ」

巧は、人さし指と中指で、ボールをはさむようにぎつてみた。これが、フオーラのに
ぎり。中指をぬい目にそつて重ね、ひねる。これがカーブ。そしてスライダーは・・・。

「すごいんじやな」

青波の声が、車の中にひびいた。

「十五年前いうたら、ぼく、まだ生まれてないじやろ。ぼくの生まれる前に、死んどるな
んてすごい」

真紀子が A 「まつすぐに肩までのびた髪がゆれる。

「まつたく青波ったら、おかしいわね。それならママのお母さんもすごいわよ。なくなつ
て今年で九年」

「すごい、九年も死んでるなんてすごい」

今度は、広が笑い声をあげた。

「青波。だからおまえには、おじいちゃんひとりが残つてることだぞ」

青波は、しばらくだまつた後、あつ、わかつた、と運転席のほうに身をのりだしてきつた。

「パパのママとパパが死んで、ママのママも死んで、じやけん、ママのパパが残つとる
んじや」

「そのとおり。これから、そのおじいちゃんの家でくらすんだからな。かわいがつてもら
え」

「だいじょうぶ。青波なら、だれからもかわいがられるわよ。ねえ、青波」

青波がやわらかな短い笑い声で答える。巧は、手の中のボールをにぎりしめた。

「パパのママとパパが死んでか・・・まつたく、たいした（二）だな。けど、残つた
答えがママのパパでよかつたぜ。おれは、そのじいさん用があるんだ。

峠を十五分もおりていくと、新田の街がはつきりと見えてきた。

ビルやテレビ塔もあるが、ほとんどは黒い屋根瓦の小さな家々だ。遠くに雪をかぶつ
た山々がはつきりと見えた。市中を流れる川だけが、空の青さを反映はいみつして美しい。

瀬戸内の明るい光になってきた目には、峠の下の街は、鉄色の古い置物のように、みよ
うに黒ずんで見えた。

「ねえ、パパつてサセンなん？」
青波が、また後ろの座席から身をのりだしてきた。

「青波、¹左遷さくせんなんて言葉、よく知つてたな」

広は、そう言つてハンドルを右にきつた。

「うん、だつて中本のおばちゃんが言うたもの。青波のお父さん、サセンなかしらつて。
なあ、サセンつて何？引つ越しして、おじいちゃんの家に行くこと？」

「中本さんが、そんなこと言つたの？」

【 真紀子が、 「 】
B 【 】
】。

巧は、ほんの少し首をまげて母の顔を見た。細くとがったあごも、切れ長のきつい目も、息を呑んでいた。

同じ社宅の同じ階に住む「中本さん」と真紀子は、わりに親しかったはずだ。(3)

甘いな母さんも。中本のおばはんなら、左遷ぐらいのこと平気で言うさ。もつとも、息子のほうは、ずいぶんましなやつだったけど。

中本修とは、少年野球チームのホワイトタイガースで、ずっとバッテリーを組んでいた。一年下で身体も大きくなかったが、肩の強さとウ根性だけは、あまるほど持っていた。

「原田さん、引っ越しなんて、ひどいですよ」

巧が新田市に行くと知ったとき、泣いたのは修だけだった。

「おれ、来年、中学に入ったら、また原田さんとバッテリー組めるて思うてたんですよ」「しかたないだろ。親にしたがうのは、子のつとめ」

「原田さんが、だれかにしたがうなんてこと、あるわけないでしようが。なんとか、残つてくれ下さいよ」

²修は、こぶしで涙をぬぐつた。

「おれが原田さんの球をちゃんとキャッチングできるようになるまで、どんくらい練習したと思うてるんですか」

「練習しなけれどや、おれの球をとれなかつたんだろ。自分のための練習で、おれに恩をうるなよ」

「きついな」
修は、うつむいてしばらくだまつていたが、ふいに顔を上げると、

「新田にエトラン勤するように、おやじに言うてみようかな」

ひとりごとのようにつぶやいた。
今、新田の街を見ながら、修の言葉を思い出す。

それもいいかもしねないな。新田に転勤なんて決まつたら、中本のおばはんがどんな顔をするか見ものだ。

「何がおかしいの？」

背中の後ろで、真紀子の【 C 】。

あ、にやついてたかな。

ほおに手をやる。しかし、答えたのは広だつた。

「いや、ちょっと部長に言われたことを思い出してさ。オ苦笑いだよ。『原田くん、故郷でのんびり仕事ができるなんて最高だよ。会社の恩情だと思つてくれ』だつてさ」

「たいした恩情だわ。だけど、³ほんと言ふと新田に帰つてこれたの、よかつたわよ」

真紀子は、車の窓ガラスを指先でたたいた。

「空気が都会とはぜんぜんちがうでしょ。青波の身体には絶対にいいわよね」

青波は生まれたとき、二千グラムに満たない未熟児だった。異常なほど強い新生児黄疸おうだんがあらわれ、三ヶ月近くの入院。アトピー性皮膚炎、熱性けいれん、肺炎、気管支炎、インフルエンザ、急性腎炎。これまで青波が経験した病気は、十の指にあまるほどだつた。

大阪にいたときは、下着や洗面用具をつめた『せいはのにゅういんセット』が、いつも棚の上に用意されていた。

「ねつ、青波。いい空気すつて、おいしい物たくさん食べて元気になろうね」

青波はトレーナーをまくつて、くの字にうでをまげた。

「おつ、すごい。たくましいわ、青波」

真紀子が【 D 】。車の中の空気はふつとやわらかくなつた。

巧は目をとじる。まぶたのうらがしひれるようなねむ氣が、ゆっくりとやつてきた。

問一 二重線部ア～オの漢字の読みを答えなさい。

(1)・(2)・(3)にあてはまる言葉として適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

3	2	1	ア	お化け	イ	大蛇	ウ	スプーン	エ	台風
			ア	足し算	イ	引き算	ウ	かけ算	エ	割り算
			苦笑い	イ	うれしさ	ウ	悔しさ	エ	ショック	

問二 【A】～【D】に入る言葉として適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

つばを飲みこむ音がする イ 笑い声がした ウ ふきだした
拍手する オ きつい声がした

問四 傍線部1「左遷」とは「させん」と読みますが、文中では意図的に漢字で表記されているものと、カタカナで表記されているものがあります。この表記の違いの意図することとして説明した次の中から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
漢字と使い分けることで、カタカナは中本さんの発言の引用を表すため。
この話の中で、漢字との違いで「サセン」の内容を強調させる働きを表すため。
カタカナで「サセン」を表記することで、外国へ行くという意味を表すため。
漢字と使い分けることで、カタカナは「サセン」の意味が理解されていないということを表すため。

問五 傍線部2「修は、こぶしで涙をぬぐつた」とありますか。その理由を説明した次の文の（　　）に指定された字数で文中の言葉を使って答えなさい。

引っ越しによつて（　　二十字以内　　）から。

問六 傍線部3「ほんと言うと新田に帰つてこれたの、よかつたわよ」という母真紀子が

発した理由を二十五字以内で答えなさい。

問七 波線部「十の指にあまる」の意味として適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
両手の指で數えられるくらい イ 両手の指では數え切れないくらい
数少ない貴重な エ めずらしい様々な

問八 本文の内容と合致するものを次から二つ選び記号で答えなさい。
父広の父母、母真紀子の母は峠の交通事故で亡くなつた。
巧は常にジャンパーに机身離さず軟式ボールを持っていた。
中本さんと母真紀子は親しかつたが、今は仲が悪くなつてしまつた。
青波は、明るく純真で、言動からも素直さがうかがえる。
青波は、不治の病を抱えながらも、明るく振る舞つている。